

### すべての児童生徒への支援教育の原点



12月3日(木)には、岡田特別支援教育課長による、本県の特別支援教育の現状や具体等に関する講義がありました。特に発達障害について、その意味や具体的な支援の進め方を学ぶことができ、今後も多くの子供たちと関わりをもつ長期研修生にとって、大変有用な時間となりました。

長期研修生からは、「発達障害の診断をするのは『医師』であり、私たち教員にできることは、『支援方法を本人や保護者と一緒に考えていく』ことだと分かった。」や「終始笑顔で穏やかに、私達に対して常に気遣いながら話される姿が印象的で、自分も見習っていきたい。」などの感想が聞かれました。

### 「思う存分」伝えることができました！

12月7日(月)には、長期研修生にとって「最大の研修」である、研究発表会が行われました。長期研修生たちは、自分の研究の「売り」を中心に、これまでの研究内容や成果、課題等について、20分という限られた時間の中で、発表に臨みました。その後、指導主事や主査からは、温かい拍手と、カードによる激励のコメントをいただき、田辺次長と櫻井教科教育課長からは、長期研修生一人一人の発表に対しての講評をいただきました。



発表を終えた長期研修生からは、「緊張したが、自分なりに納得のいく発表をすることができた。」や「先生方からの拍手を聞き、安堵の気持ちでいっぱいになった。」、「研究報告書の完成に向けて、さらに修正を重ね、よりよい報告書に仕上げていきたい。」などの感想が聞かれました。